



令和2年度

札幌市 生物多様性

レポート

Biodiversity Report in Sapporo-city



札幌市





札幌市は、平成25年3月に策定した「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、深刻な地球環境問題となっている生物多様性の保全のため、さまざまな取組を進めています。

札幌市生物多様性レポートでは、令和元年度の取組について報告します。

生物多様性さっぽろビジョンの概要

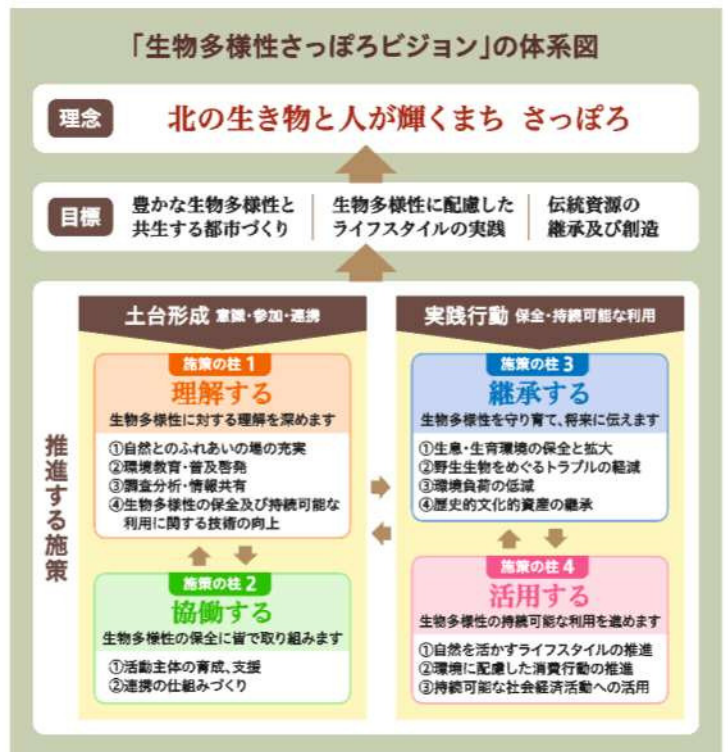
私たちが暮らす札幌市では、これまで6,000種以上の動植物が記録されており、生き物同士は、食べたり、食べられたり、競争したり、助け合ったりして、互いに関係しながら複雑につながりあって生きています。

このように様々な生き物が存在し、それぞれがつながり合っている状態を表すのが「生物多様性」という言葉です。この生物多様性の喪失は、世界中の生物多様性に依存している私たちの暮らしに大きな影響を与えます。

市内には、絶滅の恐れのある野生生物のリストである「札幌市版レッドリスト」(※1)に掲載されている生き物が297種生息しており、都市化に伴う生息・生育環境の縮小、外来種(※2)の影響などにより、そういった希少な生き物への影響が懸念されています。

そのため、札幌市では生物多様性の保全に関する取組の方向性を示す長期的な指針として「生物多様性さっぽろビジョン」を策定し、体系的・総合的な施策の推進を図っています。

ビジョンに掲げる「北の生き物と人が輝くまち さっぽろ」の理念のもと、市民やNPO、事業者などのあらゆる方々と協働し、生物多様性の保全のため、札幌市の自然環境を保全するとともに、市民一人ひとりのライフスタイルの見直し等を進めていきます。



※1 「札幌市版レッドリスト」とは

「レッドリスト」とは絶滅の危険度を科学的、客観的に評価してまとめた絶滅のおそれのある野生生物のリストです。

札幌市版レッドリストは、札幌市が進める生物多様性の保全に必要な対策の基礎資料や、環境影響評価や各種施策における保全事業等にも活用され、公表することで生物多様性保全に対する意識の醸成を図るとともに、取り組みへの意識向上を図る効果も期待されます。



▲札幌市版レッドリストのページ



※2 外来種とは

人間の活動に伴って、それまで生息していなかった場所に持ち込まれた生き物のことを言います。

うち、外来生物法では、生態系、人の生命・身体、農林水産業に悪影響を及ぼす侵略的な外来種を「特定外来生物」として指定し、飼育、運搬、輸入等を規制しています。

また、北海道でも北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づき「指定外来種」を指定しており、適切な飼養や野外に放つこと等を禁止しています。



◀外来種にご注意！のページ



札幌市の取組

札幌市では、「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、生物多様性に対する理解の促進及び保全に向けた行動の実践を推進するため、さまざまな取組を進めています。



さっぽろ生き物さがし2019

理解 協働 継承 活用

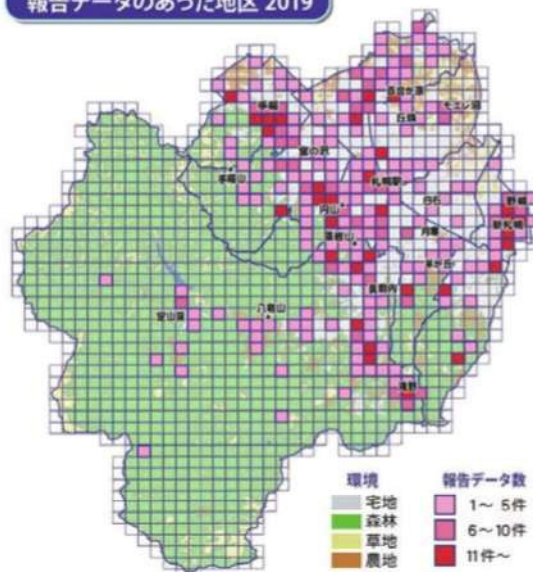
札幌市では、平成25年から毎年、市民参加型の生き物調査「さっぽろ生き物さがしプロジェクト」を実施しています。令和元年度は5月17日～9月30日にかけて、シオカラトンボやオオウバユリなど札幌市の「指標種」を含む約30種を対象として開催しました。

調査には140チーム879名が参加し、総データ数は1,897件になりました。調査によって得られた結果は毎年蓄積し、市内の自然環境の変化の把握に活用しています。



▲参加者から寄せられた生き物写真(投票によって選ばれた上位のもの)

報告データのあった地区 2019



▲令和元年度報告データのあった地区

円山動物園夏の特別企画展

理解 協働 継承

身近な自然を通じて生物多様性を考える普及啓発事業の一環として、令和元年7月27日～8月4日に円山動物園において特別企画展「探そう!札幌の身近な生き物展」を開催しました。

外来種も含めた近所の公園で見られるような生き物を展示し、どのようなところに生息しているのか、どうやったら見つけれられるのか、専門家による解説を行いました。また、事前に市内の小学生からキッズスタッフを募集し、円山公園での捕獲体験(捕獲された生き物は展示に活用)や企画展の展示制作を行いました。9日間の開催期間の中で延べ約3,700人の方々にお越しいただきました。



▲土の中の昆虫を見つけて触れ合える「タッチ土」



▲キッズスタッフの捕獲体験



令和元年度自然環境調査

理解 継承 活用

「生物多様性さっぽろビジョン」で定める5つのゾーンからモデル地区を選定し、令和元年度はそれぞれのモデル地区において植物相調査を行いました。

また、モデル地区の一つである平岡公園にて生き物観察会を行い、14組36名の方々にご参加いただきました。



生き物観察会のようす



生き物観察会では、身近な生き物について学んでもらったっコー!

札幌市の生物多様性PRキャラクターカッコー先生

モデル地区と、生息が確認された主な希少種や指標種(※)

(※) 指標種・・・札幌市内で見られる生態系を代表し、その環境の指標となる動植物



生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

理解 協働 継承 活用

札幌市では、平成25年10月、札幌市内の環境関連施設による「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」を立ち上げました。

このネットワークは、生物多様性保全の活動拠点として位置付ける19施設(令和2年8月現在)及び札幌市で構成し、拠点間の情報共有や連携・協働を進め、生物多様性に対する市民の理解促進と市内全体の生物多様性保全活動の活性化を図っています。

令和元年度は、「いきものつながりクイズラリー2019」及び2回の「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークバスツアー」を開催しました。



▲バスツアーの様子

活動拠点

札幌市水道記念館、札幌市円山動物園、札幌市下水道科学館、札幌市環境プラザ、札幌市百合が原緑のセンター、サッポロさとらんど、札幌市豊平公園緑のセンター、札幌市博物館活動センター、札幌市平岡樹芸センター、サンピアザ水族館、北海道博物館、札幌市豊平川さけ科学館、札幌市保養センター駒岡、札幌市青少年山の家、札幌市滝野自然学園、札幌市北方自然教育園、サッポロピリカコタン、札幌市定山溪自然の村、札幌市動物管理センター

活動拠点における取組

青少年山の家

雄大な自然の中で、心身ともに健やかな青少年を育成することを目的とし、滝野すずらん丘陵公園内に設置された集団宿泊施設です。ハイキング、野外炊事、歩くスキー等、四季を通じて一年中楽しむことができます。また、毛皮や糞のレプリカなどに触れる体験をとおして、野生動物と人間との共生について考える「ヒグマ・エゾシカトランクキット」や森林資源の循環利用を題材としたプログラムを小学校で実施するなど、生物多様性について考える“きっかけ”となる出張事業も実施しております。今後も、豊かな自然環境を活用しながら、事業の展開やプログラムの開発を進めていきます。



◀青少年山の家
のページ

札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)

札幌市アイヌ文化交流センターは、南区小金湯に位置する、北の大地に先住し独自の文化を育んでいるアイヌ民族の生活や歴史、文化などを楽しみながら学び、理解を深めることができる施設です。

屋内展示室には伝統衣装や民具など約300点が展示されており、実際に手に取って見るすることができます。また、敷地内に「歴史の里」と「自然の里」を整備しており、チセ(家屋)やブ(倉)、イユタブ(精米用具)などの施設が当時のように再現されています。



▲札幌市アイヌ文化交流
センター(サッポロピリ
カコタン)のページ



生物多様性さっぽろ応援宣言

理解 協働 継承 活用

札幌市では、平成27年9月より、生物多様性の保全に積極的に取り組んでいる企業・団体を、「生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体」として登録し、札幌市がその取組をPRして、企業・団体のみなさまの取組を支援する制度「生物多様性さっぽろ応援宣言」を開始しました。

令和2年12月現在で、103企業、24団体が登録しています。

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/sengen.html>

応援宣言企業

103企業

- | | | | |
|----------------------|--------------------------|----------------------------|-------------------|
| ●赤帽 シェルパ | ●株式会社耕電設 札幌支店 | ●株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 北海道ゾーン | ●北海道コンソ急送株式会社 |
| ●赤帽田中船運送店 | ●株式会社コクサク | ●株式会社ソフトガーデン | ●北海道秋山造園株式会社 |
| ●秋津道路株式会社 | ●ことばサポーターなぐね | ●株式会社大伸 | ●株式会社北海道アルバイト情報社 |
| ●浅野建設株式会社 | ●株式会社小林サイクル商会 (オニキス札幌中央) | ●大同館道株式会社 | ●北海道衛生工業株式会社 |
| ●株式会社あづまや質店 | ●株式会社サジェコ | ●株式会社タイヤリサイクル北海道 | ●株式会社北海道建設新聞社 |
| ●株式会社アドバコム | ●株式会社札幌今村電機 | ●株式会社田中組 | ●北海道トンボ株式会社 |
| ●株式会社アミノアップ | ●一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団 | ●株式会社長大 | ●北海道フーズ輸送株式会社 |
| ●荒井建設株式会社 札幌支店 | ●札幌大同印刷株式会社 | ●株式会社ディスプレイセンター北創 | ●マルコー開発株式会社 |
| ●イオン北海道株式会社 | ●公益財団法人札幌市公園緑化協会 | ●デリシャス株式会社 | ●株式会社丸周中村土木 |
| ●石上車輛株式会社 | ●株式会社さっぽろ自然調査館 | ●株式会社東亜エンジニアリング | ●丸昇 佐々木電気 |
| ●有限会社エースメンテック | ●札幌新聞輸送株式会社 | ●株式会社東急コミュニティー 北海道支店 | ●丸富テント工業株式会社 |
| ●株式会社 エコ・サッポロ | ●株式会社札幌ドーム | ●道邦工業株式会社 | ●マルホン北英建設株式会社 |
| ●株式会社エコテック | ●株式会社札幌リフォームセンター | ●株式会社トーエイ | ●マルミプラス株式会社 |
| ●株式会社エコニクス | ●三兼建設工業株式会社 | ●株式会社ドーコン | ●株式会社ミスターブルー |
| ●エコフィスジャパン株式会社 | ●システムサービス株式会社 | ●西松建設株式会社 札幌支店 | ●株式会社宮田組石工 |
| ●蝦夷工業株式会社 | ●株式会社 四宮造園 | ●株式会社 日水コン 北海道支所 | ●ムトウ建設工業株式会社 |
| ●FRSコーポレーション株式会社 | ●株式会社昭和南業 | ●日本航空株式会社 | ●明和工業株式会社 |
| ●株式会社FF | ●株式会社水工技研 | ●日本信号株式会社 北海道支店 | ●森山泰志税理士事務所 |
| ●株式会社大庭組 | ●杉原建設株式会社 | ●日本緑化工株式会社 | ●安田興業株式会社 |
| ●岸本産業株式会社 | ●鈴木総合住設 | ●株式会社花の八幡屋 | ●雪印種苗株式会社 |
| ●株式会社キタデン | ●株式会社鈴木東建 | ●株式会社 日立ソリューションズ東日本 | ●雪印メグミルク株式会社 |
| ●協友建設工業株式会社 | ●生活協同組合コープさっぽろ | ●富士ゼロックスシステムサービス株式会社 北海道支店 | ●ユニオンデーターシステム株式会社 |
| ●クボタ環境サービス株式会社 北海道支店 | ●株式会社セイショウ | ●株式会社プリプレス・センター | ●株式会社ユニコロン |
| ●株式会社熊谷組 北海道支店 | ●正電テクノ | ●株式会社ホクスイ設計コンサル | ●横浜植木株式会社 北海道支店 |
| ●株式会社建設環境研究所 札幌支店 | ●株式会社ゼータセグメント | ●株式会社北洋銀行 | ●株式会社リベース |
| ●株式会社建設技術研究所 北海道支店 | ●株式会社セ・プラン | | ●株式会社ローソン |

応援宣言企業

24団体

- | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------|--------------------|---------------------|
| ●旭山記念公園市民活動協議会 | ●(公社)札幌消費者協会「北海道エソシカ倶楽部」 | ●八紘学園 耕機科 | ●NPO法人北海道森林ボランティア協会 |
| ●NPO法人エソシカネット | ●札幌南ふゆみずたんぼの会 | ●地縁団体 藤ヶ丘西町内会 | ●北海道ボランティア・レンジャー協議会 |
| ●NPO法人カラカネイトンボを守る会 -あいあい自然ネットワーク- | ●札幌ワイルドサーモンプロジェクト | ●北海道希少生物調査会 | ●NPO法人ポロクル |
| ●NPO法人札幌歩こう会 | ●札幌市立定山溪中学校 | ●北海道グリーン購入ネットワーク | ●兼舞国蝶オオムラサキ保存会 |
| ●NPO法人札幌カラス研究会 | ●食輪の会 | ●北海道自然観察協議会 | ●NPO法人葉岩山きのご観察会 |
| ●サッポロさとらんど | ●手稲さと川探検隊 | ●公益財団法人北海道自然体験学習財団 | |
| | | ●北海道シマフクロウの会 | |

登録団体

非特定営利法人 北海道森林ボランティア協会

森の育林活動、森の生態系保全活動、森の環境教育活動を3本柱として活動を続けています。

2006年に札幌市澄川都市環境林内を流れる右精進川でホタルを発見してから、生き物の保全にも力を入れてきました。2019年からは水質検査・水生生物調査を行い環境調査に取り組んでいます。

森林保全とホタル・エゾサンショウウオなどの保全活動を通して、札幌市街地に隣接する都市環境林が親子森林教室の子どものための教育の場となる事を願って活動していきます。



北海道森林ボランティア協会のページ

登録企業

荒井建設株式会社 札幌支店

創業126年の荒井建設は、より良い地球環境を次世代に引き継ぐため、CO2や廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進など、環境への負荷低減に努めています。札幌支店では、豊平区を流れる精進川の清掃活動を、その趣旨に賛同する企業と地元町内会と連携し合同で行っています。かつては大型ゴミの投棄もありましたが、近年、夏は鴨の親子が川面を泳ぎ、秋はサクラマスが産卵に遡上、環境の良化が実感されます。生物多様性に配慮した環境保全活動を続けていきます。



荒井建設株式会社
のページ



株式会社エコテック

エコテックは主に北海道内の河川に関わる社会基盤整備に携わる建設コンサルタントです。受託した調査・計画・設計業務を通し、流域それぞれで異なる生物多様性の確保に留意し、水系の連続性確保や湿原再生、次世代を担う子供たちを対象とした環境教育などに取り組んで参りました。

私たちは創業30周年を迎えます。これからも“未来に自信を持って引き継ぐことのできる川づくり”を心掛け、社会に貢献し続ける企業を目指します。



株式会社
エコテック
のページ



株式会社田中組

明治35年に創業した田中組では、二酸化炭素や窒素酸化物等の大気汚染物質の排出が少ないエコカーの積極的な導入や、ペットボトルキャップの回収を行い、環境負荷の低減や省資源など地球環境の保全に努めています。

また、平成21年度より締結した道路アダプト活動として、本社のある桑園地区周辺の清掃・美化活動など、様々な環境保全活動を実施しています。

今後も、より環境に配慮した活動を続けていきたいと考えています。



株式会社
田中組の
ページ



その他の札幌市の取組

3ページから4ページで紹介した以外にも、札幌市では生物多様性の保全につながる様々な取組を行っていますので、その一部を紹介します。その他の取組については、右の二次元バーコードから札幌市ホームページの「生物多様性の保全」ページをご覧ください。



札幌市の取組
一覧のページ

「さっぽろとれたてっこ」制度
(経済観光局農業支援センター)

理解 継承 活用

札幌の農産物「さっぽろとれたてっこ」を推進する取組を実施しています。「さっぽろとれたてっこ」を消費者にPRして地産地消を促すことで、環境にやさしい消費行動につながります。

令和元年度は、地産地消に賛同し「どこで札幌産野菜が買えるのか、知りたい」という市民の声に応じて、買い物やドライブなど日常生活の中で販売場所を直接確認することができるよう、市内の直売所等に「とれたてっこマーク」のノボリを設置しました。



▲「さっぽろとれたてっこ」制度のページ

鴨々川生き物観察会
(下水道河川局河川事業課)

理解 活用

平成元年7月、8月に鴨々川(創成川)にて、生き物観察会を開催しました。本観察会は川に親しみ川への興味をもってもらうことを目指して平成27年度より開催しているもので、令和元年度は多くの小学生親子に参加していただきました。当日は、川の整備のことや生き物を育む川の環境の大切さを説明した後、専門家(札幌市豊平川さけ科学館学芸員)の指導のもと川に入り、生き物の観察を行いました。鴨々川のような札幌の中心部の川でも、フクドジョウやヤマメ、モクズガニなど多様な生き物が生息していることが確認できました。



▲鴨々川いきもの観察会のページ

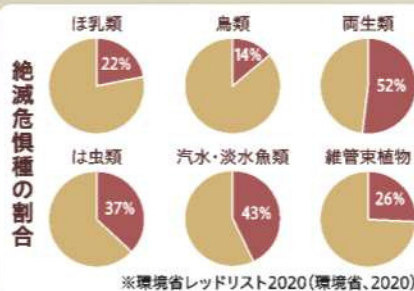
生物多様性 Q&A

Q 生態系サービスって何？

A 生物多様性によってもたらされる恩恵のことで、4つの機能に分けられます。1つ目は食べ物、木材、衣類、水、医薬品などの生活の糧、2つ目は大気や水をきれいにしたり、二酸化炭素を吸収する調整機能、3つ目は人間生活を豊かにする景観、祭り、郷土料理など地域の自然に根づいた文化です。これら3つの機能は植物による光合成、微生物による土壌形成、水の循環といった4つ目の基盤機能により支えられています。

Q どのくらいの生き物が絶滅しそうなの？

A 生物多様性は、主に人間活動の影響により急速に失われつつあります。現在、地球上では自然の速さの1,000倍というスピードで生き物の絶滅が進んでおり、将来的には人類も存亡の危機に直面することが懸念されます。日本で絶滅が危惧されている動植物は合計で3,716種とされています。



生物多様性さっぽろビジョンの進行管理

生物多様性さっぽろビジョン(P2参照)では、推進する施策として立てた「理解する」、「協働する」、「継承する」及び「活用する」の4つの柱ごとに成果指標を定めて、進行管理を行っています。

■指標及び進捗状況

施策の柱	指標	基準値 (平成23年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値 (令和2年度)
理解する	生物多様性の理解度 (意味を知っている人の割合)	33.1%	28.8%	36.6%	33.7%	34.8%	28.6%	33.5%	37.2%	60%
協働する	生物多様性保全活動に参加したり、取り組んでいる市民・事業者の割合	市民: 5.0% 事業者: 40.4%	市民: 4.4% 事業者: 44.4%	市民: — 事業者: 64.3%	市民: — 事業者: 66.6%	市民: — 事業者: 64.5%	市民: 3.1% 事業者: 58.9%	市民: — 事業者: 51.1%	市民: — 事業者: 46.6%	市民: 10% 事業者: 60% ※1
継承する	主な生息・生育地における指標種の生息状況	—	—	—	—	—	—	—	—	生息し続けていること、又は増えていること
活用する	自然と積極的に触れ合っている市民の割合	24.2%	19.5%	—	—	—	27.0%	—	—	35%
	市民の地産地消や環境配慮商品の利用促進	地産地消: 65.7% 環境配慮商品: 27.4%	地産地消: 59.3% 環境配慮商品: 25.0%	—	—	—	地産地消: 60.7% 環境配慮商品: 18.1%	—	—	地産地消: 75% 環境配慮商品: 50%
	事業者の原材料調達時の配慮の促進	30.00%	57.5%	69.4%	44.7%	50.0%	59.4%	52.6%	50.0%	50%

※1「生物多様性保全活動に取り組んでいる事業者の割合」(協働する)については、平成27年度の目標値。

※2「主な生息・生育地における指標種の生息状況」(継承する)については、選定した指標種のモニタリング調査により生息状況を把握する予定。

評価と今度の取組

成果指標については、市民アンケートを行った結果、「生物多様性の理解度」(理解する)は37.2%と前年度より上昇しました。また、企業アンケートを行った結果、「生物多様性の保全活動に取り組んでいる事業者の割合」(協働する)と「事業者の原材料調達時の配慮の割合」(活用する)について平成30年度より減少しました。

「理解する」については、前年度から上昇しているものの過年度と同様に目標値を下回っており、「協働する」「活用する」については前年度から減少していることから、今後は、多くの市民が生物多様性の理解を深める機会を創出するとともに、よりわかりやすく伝える工夫をしていきます。また、生物多様性の保全・持続可能な利用に向けた実践行動として、外来種対策や希少種の保全の取組も併せて行っていきます。



●編集・発行 令和2年(2020年)12月
札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階
TEL 011-211-2879 FAX 011-218-5108

札幌市 生物多様性 <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/>



SAPPORO



さっぽろ市
02-J02-20-1825
R2-2-1165

